資 料 3

麻しん・風しんに関する疫学情報

東京都健康安全研究センター

○麻しん

麻しんは、麻しんウイルスを原因とする感染症です。

一般的には「はしか」とも呼ばれ、毎年春から初夏にかけて多くみられます。小児期に多いといわれていますが、最近では成人での発症もみられ、集団感染事例も報告されています。

【感染経路・感染期間】

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、及びウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。感染力はきわめて強く、感染した人の 90%以上が発症します。周囲へ感染させる期間は、症状の出現する 1 日前（発しん出現の 3～5 日前）から発しん消失後 4 日くらいまでです。

【潜伏期間・症状】

10～12 日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状（咳、鼻水、目の充血等）が 2～4 日続き、その後 39℃以上の高熱とともに発しんが出現します。症状は 7～10 日で回復します。肺炎、脳炎といった重い合併症を発症することもあります。

【治療】

特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。

【予防】

唯一の予防方法はワクチン接種です。

➢ **修飾麻しんとは**

幼少時に 1 回のみワクチンを接種しているなど、麻しんに対する免疫が不十分な人が麻しんウイルスに感染した場合、軽症で典型的な症状が現れない麻しんを発症することがあります。このような麻しんを「修飾麻しん」と呼びます。

具体的には、高熱が出ない、発熱期間が短い、発しんが手足だけで全身には出ないなどです。潜伏期間が長くなり、感染力は典型的な麻しんに比べて弱いといわれていますが、周囲の人への感染源になるので注意が必要です。

○風しん

風しんは、風しんウイルスを原因とする感染症です。

一般的には「三日はしか」とも呼ばれ、春から初夏にかけて多くみられます。学童から思春期に多いと言われていますが、最近では成人での発生もみられ、集団感染事例も報告されています。また、妊娠初期の女性が感染すると、先天性風しん症候群（CRS）※を起こすこともあります。

※先天性風しん症候群（CRS）

風しんに免疫のない女性が妊娠初期に風しんに感染し、風しんウイルスが胎児に感染することにより、出生児に先天性の心疾患、難聴、白内障等の障害を起こす病気の総称

【感染経路・感染期間】

患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」が主たる感染経路ですが、その他に、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。周囲へ感染させる期間は、発しんの出現する 7 日前から発しん出現後 5 日くらいまでです。感染力は、麻しんや水痘（水ぼうそう）ほどは強くありません。

【潜伏期間・症状】

通常 2～3 週間（平均 16～18 日）の潜伏期間の後、発熱、淡紅色の発しん、リンパ節腫脹が出現します。基本的には予後は良好ですが、関節炎や血小板減少性紫斑病、急性脳炎などの合併症を発症することもあります。ウイルスに感染しても明らかな症状がでることがないまま免疫ができてしまう（不顕性感染）人が 15～30%程度いると言われています。一度感染すると、大部分の人は終生免疫を獲得します。大人が罹患すると、その症状は小児に比べると比較的重いといわれています。

【治療】

特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。

【予防】

唯一の予防方法はワクチン接種です。妊婦に感染させないためには、本人だけではなくパートナーや周囲の人もワクチン接種することが重要です。

○麻しん・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）

定期予防接種対象のワクチンです。2006 年 4 月から 2 回接種になりました（表 1）。決められた期間内に接種すれば公費となります（窓口は市区町村）。

表 1

第 1 期	生後 12 か月以上 24 か月未満
第 2 期	小学校入学前の 1 年間（5 歳以上 7 歳未満）

定期予防接種が 2 回接種となった 2006 年 4 月以前は接種回数や対象が異なっていたため（表 2）、まだ一度も感染したことがない人の場合は、大人でも免疫が「不十分」、または「ない」人もいます。MR ワクチンは大人になってからでも医療機関で接種することができます（多くの場合は全額自己負担ですが、一部の自治体では費用を助成する制度があります）。

表 2　生年月日別風疹含有ワクチンの定期接種の状況

生年月日	1回目	2回目
昭和37年4月2日以降 昭和54年4月1日生まれ	中学生の時に女性のみ風しんワクチン。 学校での集団接種。	
昭和54年4月2日以降 昭和62年10月1日生まれ	中学生の時に男女とも風しんワクチン。 医療機関での個別接種。 接種率が低かったために、平成13年11月7日から平成15年9月30日までならいつでも受けられた。 1歳から6歳までのどこかで1回目のMMRワクチンの人もいる。	
昭和62年10月2日以降 平成2年4月1日生まれ	1歳から7歳半までに1回目の風しんワクチンあるいは 1歳から6歳までに1回目のMMRワクチン	
平成2年4月2日以降 平成7年4月1日生まれ	1歳から7歳半までに1回目の風しんワクチンあるいは 1歳から6歳までに1回目のMMRワクチン	高校3年生相当年齢（18歳になる年度）でMRワクチン
平成7年4月2日以降 平成12年4月1日生まれ	1歳から7歳半までに1回目の風しんワクチン	中学1年生（13歳になる年度）でMRワクチン
平成12年4月2日以降 平成17年4月1日生まれ	1歳から5歳までに1回目の風しんワクチン	小学校入学前1年間（6歳になる年度）でMRワクチン
平成17年4月2日生まれ以降	1歳時にMRワクチン	小学校入学前1年間（6歳になる年度）でMRワクチン

多屋馨子：わが国の風疹の現状と課題. 小児科　53（9）1151-1163, 2012